

下肢末梢動脈疾患に対する取り組みについて

当院では、下肢末梢動脈疾患に対して早期に診断・治療に取り組んでいます。

《下肢末梢動脈疾患の診断》

- ・問診 : 気になる症状について確認します。
- ・視診 : 皮膚の色を見ることで、血流障害を確認します。
- ・触診 : 足の脈拍を調べることで、動脈硬化を確認します。
- ・ABI検査 : 腕と足の血圧を比べて、足の血流低下の程度を確認します。
- ・血管造影 : ABIで低値や症状の強い時に造影剤を使用して、どの血管がどの程度狭窄しているか確認します。

《下肢末梢動脈疾患の療法》

- ・運動療法 : 基本は歩くことです。歩くことで血行が良くなるだけでなく天然のバイパス路である側副血行路が発達します。
- ・薬物療法 : 抗血小板薬と呼ばれる薬を中心に症状に応じて処方します。
- ・血管内治療 : 太ももの付け根から足の血管の中に細い管を入れ、管の先に付けた風船で細くなった部分を拡げる治療です。
- ・外科療法 : 血管の詰まってしまった部分を飛び越えるように人工血管や自分の静脈を使って新しい血液の通り道を作る手術です。

当院は、下肢末梢動脈疾患指導管理加算の届出を行っており、慢性維持透析をされている方に対し、下肢末梢動脈疾患に関する検査を行っています。検査の結果、専門的な治療(血管内治療・外科療法)の必要がある場合は、予め連携医療機関として定めた、山口大学医学部附属病院 循環器内科・第一外科へ紹介を行っています。